

杉並区議会議員

松本みつひろ

Vol.09

令和三年第二回定例会
杉並区議会レポート



一般質問

教育について おもて面・裏面

保育の質について 中面①

委員会質疑

保健福祉委員会 中面②

災害対策・防犯等特別委員会 中面③

杉並区基本構想答申案に
関する全員協議会 中面④

Topic 教育について

多様な子ども達を誰一人取り残さず、子どもと大人ひとりで個別最適化された学習能力を層層実
に育成できる教育ICT環境の実現を目指したGIGAスクール構想の実現に向けた取組の一つである児童
生徒一人一台タブレットの導入について、昨年の第一回定例会で取り上げ、今年2月に全校に導入された
まじ、導入にあたっての混乱は予想されたとおり、教育委員会として適切に対応しつつ、その次の設備を
的確に設定できているか、議会の立場から監督も含め確認をさせていただきます。また保護者の皆さんから学校
教育における様々なお困りごとを伺っており、それらについても質問しました。

松本：紙ベースで行われていたよりも効果的な学習について、区立学校の取
組事例を確認する。
教育政策担当部長：理科の観察の授業で、弱視の児童が、対象となる昆虫
や植物をタブレット端末で撮影し、画面上で拡大して観察するといった事例
があった。
松本：タブレットを活用し、協働編集を通じてアクリン・ラーニングを
実現した事例、動画共有を活用した反転学習¹を行っている事例、自動採点
機能を活用した小テストの実施等の事例があるか。
教育政策担当部長：社会科の新聞づくりや理科の実験のまとめの際に、グ
ループで分担して協働的に作成・編集するなど、タブレット端末の学習支
援機能を活用している。反独自のドリル教材である「すきなみ算数ドリル」
の自動採点機能を活用している事例もある。動画教材を活用した反転学習
を行っている事例はまだない。
松本：遅刻・欠席連絡のオンライン化²について、ICTを活用したソリュー
ションを求め、教員・保護者の負担を軽減することについて、区教委の見
解を求め、
教育政策担当部長：一学校により、等の保護者との情報共有及び保護者への
各種アンケートとあわせ、実施する。教育委員会では、教員・保護者の負
担を軽減することは重要なことだと捉えており、引き続き取り組んでいく。
松本：ICT支援員の体制について、令和3年度ではどのような体制強化が
図られているか。
教育政策担当部長：週1〜2回程度学校を訪問し、技術的な支援を行っていること
に加え、一台タブレット端末が実現したことにより、新たに委託し専用コー
ルセンターを設けた。
松本：教員同士の情報共有を活性化させ、指導力向上を図る取組について
見解を求め、
教育政策担当部長：昨年度導入したオンラインの会議システムと情報連絡
システムを活用することで、教員同士の情報共有や意見交換が可能となっ
ている。これらのシステムは教員研修や研究会、会議などでも活用され、
教員の指導力向上にもつながっている。(重要回へ続く)

¹反転学習とは、授業の前半に授業の予習や復習を行い、後半に授業を行う学習方法のこと。
²遅刻・欠席連絡のオンライン化とは、保護者がタブレット端末から遅刻・欠席連絡を行うことができるようにしたことを指す。

issuesというWebサイト経由で、195件(質問日時)のご要望をいただいていた。遅刻・欠席届のオンライ
ン化が実現されました!連絡帳を近所の友だちに渡して提出してもらおう、といった対応は、間もなく不
要になります!(コロナ禍で電話での受付も可能とする学校がありました。が、質疑にもある通り教員・保護
者両者の負担軽減の観点から、ICT活用が望ましいものと考えています)

松本：昨年の第一回定例会での私の質問に対し、当時の教育企画担当部長であった白石教育長
から、「教員がICT機器を効果的に活用した質の高い授業を行うためには、教員のICTリテ
ラシーを向上させることが必要」教員研修の充実を図り、ICTリテラシーの向上につなげて
いく」という答弁があったが、その後研修を充実させることができていくか、教員が適宜受講
できているかについて、現状を確認する。
教育政策担当部長：これまで授業支援ソフトやデジタル教科書等の活用方法を学ぶ研修を
設けている。今年度は研修の回数を増やし、受講する対象者を広げるなどとして、負担増にも
配慮しながら適宜受講できる体制を整えている。
松本：魅力ある学校づくりとの関連で、今後のICT活用について、区教委の意気込みを伺う。
教育政策担当部長：魅力ある学校づくりについては、ICTの活用だけでなく、子ども達が
安心して通わせることや、保護者・地域に開かれていくこと、総合的なものである。一方、
ICTについては、これからの学校教育を支える基盤的なツールとして必要不可欠なものであ
るという前提に立ち、全ての子ども達の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを一
体的に充実させていく。
松本：中学入試の受験者が減らなかつた理由について、私立中学校のオンライン対応の早さが
評価されたという見方があり、教育にICTを活用することに期待をしている保護者と児童・
生徒が多く存在していることが推測される。区立小学校の卒業生のうち、私立中学校に進学
した児童の割合を確認する。
教育政策担当部長：どの年度も30%前後であり、変わっていない。
松本：「学びの選択肢がたか」とあることの重要性など、「パパパパのがっこう」がもたら
す示唆を教委としてどのように解釈しているか、見解を求め、不登校児とのかかりについ
て、今後の展望を伺う。
教育政策担当部長：不登校児童・生徒一人ひとりの状況に応じた多様な教育機会を確保する
ことをとおして、社会的自立を目指すことを示唆していると考えている。子ども達の発達や学習を
取り巻く個別の教育ニーズを把握し、様々な課題を乗り越え、一人ひとりのよこや可能性を伸
ばしていくよこさめ細かい支援を重ねていく。
松本：体育の授業時に肌着等の着用が禁止されている学校があったか確認する。そのような学
校では、保護者に予め説明がされていたか。着用禁止について速やかに改善を求めるが見解は。
教育政策担当部長：汗などにより体を冷やさない等、児童の健康面や衛生管理面から着用を禁
止している学校も数校あり、その中には保護者に予め説明をしていない学校もあった。児童の心
情や保護者の意見を尊重しながら、社会通念に照らして適切な対応を行うよう各学校に指導助
言をし、各学校で肌着を着用する場合は、替えの肌着を持参させる等配慮している。
松本：忘れ物をなくするために「置き勉」を認めない、という指導に対する区教委の見解を求め
ると共に、区立学校における「置き勉」の実施状況を確認する。
教育政策担当部長：保護者とも連携し、児童生徒の発達段階や学習上の必要性、通学上の負
担等の実態を考慮して判断することが大切。教育委員会として、区立学校において、児童生徒
の持ち物について、各学校内で共通認識をはかり、適切に実施していることを確認している。

■その他質疑を通じて確認したこと

項目	状況(各件)
今年度タブレットを授業で活用した 学級の割合	小中学校あわせて約55%
教科ごとのタブレット授業の実施状況	国語科や算数・数学科、社会科や理 科など幅広く活用
オンラインホームルームを 実施した学級	約12%
タブレットで完結する宿題を 出したことのある学級	19クラス
Microsoft Teams ¹ を介して宿題を 出したことのある学級	なし
オンラインホームルームに不登校の 児童・生徒が参加した事例数	21校で実績あり
タブレットならではの学習効果のある 民間提供の教材の活用事例の有無	空間図形のデジタル教材や地図アプ リケーション等の活用により、児童 生徒が自らの疑問について調べた り、個別に学習を進めている

結局置き勉はありなの?なしなの?を後日確認したところ、
今はどの学校でも置き勉をすてよいことになったということです。

ご意見、ご要望などをお聞かせください。

住所：杉並区
お名前：
電話番号：
ご年齢：

日本維新の会 衆議院東京都第8選挙区支部 〒167-0032 杉並区天沼3-10-2 (青柳街道沿い)
Tel 03-5335-7436 / Fax 03-5335-7437